ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 306
September
2018

トピックス

ADRC客員研究員レポート

ボラー・ムリドゥスミタ（インド）

ショウファ・アミナス（モルディブ）

インターンレポート

樋口真音

Asian Disaster Reduction Center
アジア防災センター

〒651－0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2　東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2018

●ADRC客員研究員レポート

ボラー・ムリドゥスミタ（インド）

私はインドから来ましたボラーム・リドゥスミタと申します。インドのアッサム州防災委員会でプロジェクトオフィサーとして働いています。アッサム州防災委員会で働く前は、GIS、リモートセンサーのアプリケーション、土地利用、防災、地方の開発など様々な研究機関やNGOなどで働いてきました。大学では、応用地質の修士号を取得し、災害をひき起こす様々な要因について研究してきました。2014年からは、アッサム州防災委員会 で働き始め、防災活動を実施してきました。アッサム州防災委員会はインドで最もアクティブに防災活動を展開している団体の一つで、インド内務省発行の災害レジリエンス指数が4番目に高い州です。

インドは、アフガニスタン、ブータン、ミャンマー、ネパール、パキスタン、中国、バングラデシュ、スリランカ―と国境を接し、アッサム州はインドの北東部に位置し、中国、ブータン、バングラデシュ、ミャンマーと国境を接しています。インドは総面積約328万７千平方キロメートル、29の州と７つの連邦直轄領で構成され、それらの36地域の中で、災害が発生しやすい地域が27もあります。またインドでは、人口の増加により災害による被害も増加し、自然災害が発生する頻度高くなっています。

私はアッサム州の防災対策を担当していて、学校安全のフラッグシッププロジェクト、防災に関する研修、計画、政策やガイドラインの策定など幅の広い業務をおこなっています。インドの国としてのガイドラインを参考にして、アッサム州の防災政策やガイドラインを作成し、災害が多いアッサム州に適したプロジェクトを、防災委員会内の専門家と協力して立案しました。 防災委員会はUNICEF、IAG、赤十字、セーブザチルドレンなどの組織と連携して、政策立案やプロジェクトの実施を行っています。私はこれらの組織がアッサム州でプロジェクトを効果的に実施できるように、調整してきました。また、洪水に強い村づくりのパイロットプログラムも実施しており、現在第2フレーズのプロジェクト計画を作成しています。このプロジェクトの第１フレーズの活動は2016年にほとんど終了しましたが、アッサム洪水、浸食、河川管理の近代化プロジェクトなど世界銀行の協力を得て実施しました。

最後になりますが、ADRCによるメンバー国の防災対策推進を支援する継続的な活動に感謝するとともに、2018年ADRCの客員研究員プログラムの一員として、防災の知識を深める機会を得ることができたことを大変光栄に思います。それらの知識を自国の防災、特に第2フレーズに入ったプロジェクトに活かしていきたいと思います。

Jai Hind!! (Victory to India)

続き

●ADRC客員研究員レポート
ショウファ・アミナス（モルディブ）

As-salāmu ʿalaykum(Peace be upon you)

私はインド洋にあるモルジブ島から参りましたシュウファ・アミナスと申します。モルジブでは防災のプロジェクトリーダーとして働いています。私は、2014年から現在に至るまで、国家防災センターにおいて、2004年インド洋津波の後に始められた国家・地方レベルでの防災活動を調整する仕事をしてきました。

その前の10年間は、国家防災センターにおいて応急対応のコーディネートをおこなってきました。現在、国家防災センターでは、災害の初期対応、被害軽減、コミュニティ防災、応急対応、復興におけるプロセスは包括的なモデルに沿って実施されています。また、国際機関、支援機関等と共に、モルジブ島の脆弱性をふまえたリスクマネージメントについて継続的に検討を進めています。

モルジブでは、高潮、豪雨に伴う洪水、都市火災が、被害があまり大きくはないのですが、頻繁に発生しています。そのため私たちはここ数年、災害予防、被害軽減、救援、応急対応を主に行ってきました。 被災後、状況が落ち着くまでは、緊急管理センターのすべての職員は、避難者にシェルターや必要な物資を届けます。私は被災時には、主に情報伝達、避難者のマネジメントなどの役割を担ってきました。

また、災害リスク軽減の担当として私は、地方、支援団体と共にプロジェクトを実施してきました。主に、島の防災計画ワークショップ、コミュニティ緊急対応チームのトレーニングなどのコミュニティ防災活動などを行ってきました。また学校を中心としたプログラムや活動を通して、コミュニティの災害リスクの軽減に向けた啓発・推進をおこなってきました。

更に私は、さまざまなトレーニングワークショップやトレーニングの計画、実施、情報官として、公式ホームページ、ショーシャルメディアなどの管理、現行の緊急対応、プログラムのガイドライン、標準的な作業手順書の作成など多岐にわたる業務を担ってきました。

ADRCに着任している期間では、主に、子供のための防災教育について学ぶと共に、防災知識の啓発・普及についてのスキルを磨いていきたいと思います。それらの防災の知識を得ることで、自身の能力を高めることが出来ると考えています。このプログラムに参加することで、地方、国家レベルの防災対策をより効率的なものにしていくことができると確信しています。このような貴重な機会を与えて頂いたことに心から感謝しております。最後に、今回客員研究員としての防災対策についてより深く学ぶ機会を提供して頂いたADRC ならびに、日本政府、一緒に学ぶインド、マレーシアからの客員研究員や日本の皆様に感謝を申し上げます。

●ADRCインターンレポート
ADRC　インターンシップ（樋口真音）

はじめまして。関西大学社会安全学部の樋口真音と申します。大学では、主に自然災害や社会災害について学んでおります。特に社会に存在する多様な分野の技術やサービスが防災・減災に応用される新時代である「太陽の防災」を専攻しています。私が2回生の頃、カナダ・アメリカに旅行した際に、世界の広さやつながり、文化の違いを実感し、世界の防災や文化の差異に興味を持ったので、大学を通じてADRCのインターンシップに申し込みました。このたび2018年8月20日から8月24日まで、インターンとして、ADRCで勤務させていただきました。

続き

●ADRCインターンレポート

ADRC　インターンシップ（樋口真音）

今回のインターンシップでは、ACDR（アジア防災会議）の開催準備、日本国内の津波に関する教材の整理、ADRC20周年記念誌の確認及び校正、学校の防災教育の授業の教材づくり、IRPやJICAなど他機関訪問などをさせていただきました。学校の防災教育の教材づくりにおいて、防災の途上国の生徒が理解できるような教材を作ることは、工夫が必要であり難しい作業であると感じました。また、今回のインターンシップを通じて、アジア諸国に対してADRCやIRPがどのように貢献しているかを学びました。

5日間という短い期間でしたが、貴重な経験をさせていただき、毎日が充実したインターンシップとなりました。この経験を将来、生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回このような機会を提供していただきました、ADRC、IRPおよび関西大学の関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。